

竹林の異変にお気づきですか？

～タケ類天狗巣病の発症～

竹林はタケノコや竹材といった恵みを与えてくれる身近な自然として大切に管理されてきましたが、戦後のプラスチック製品の普及や外国からの安価なタケノコの輸入により、近年ではほとんど利用されていません。そのため、管理されない竹林から里山へとタケが広がって、景観の単純化や生物多様性の低下といった問題が生じています。

広がるばかりとみられた竹林ですが、最近、タケ類天

狗巣病という竹特有の病気によって竹林が大規模に枯れるという現象が確認されています。この病気は、竹林の分布の拡大を防いでくれるかもしれませんが、里山景観の大きな変化や防災上の問題が心配されます。

ここでは、タケ類天狗巣病について解説します。周囲の竹林の健全性を確かめてみませんか？

天狗巣病に影響を受ける 竹林の現状 ～兵庫県三田市の事例～

兵庫県三田市内の76か所のマダケ林と42か所のモウソウチク林でタケ類天狗巣病の発症状況を調査したところ、73か所のマダケ林(全体の96.1%)が天狗巣病にかかっていました。一方、モウソウチク林では発症した林分はありませんでした。

天狗巣病にかかったマダケ林の半数は枯れた竹が混ざるのが目立ち、中には右のように群落全体が枯れてしまっているところもありました。

このように、三田市内のいたるところで天狗巣病にかかり枯死した竹林が広がっています。

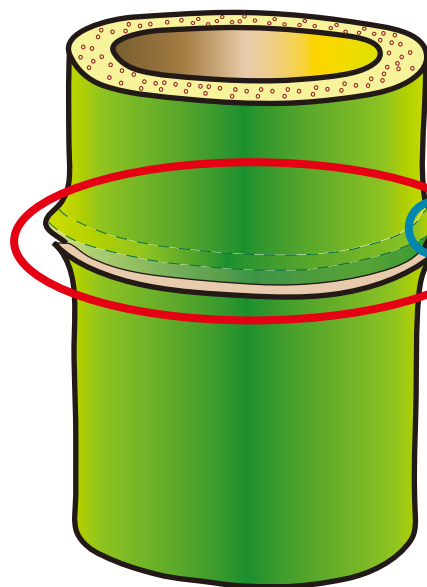
裏面では天狗巣病の症状を詳しく説明しています。



写真 天狗巣病を発症して、全体に枯死した竹が広がるマダケ林(2005年8月 三田市内)

マダケとモウソウチクの簡単な見分け方

日本には非常に多くの種類のタケや笹が植栽されていますが、15mをこえる大型のタケはマダケとモウソウチクです。マダケとモウソウチクでは天狗巣病の発症の状況も違うので、この2種の簡単な見分け方を紹介します。



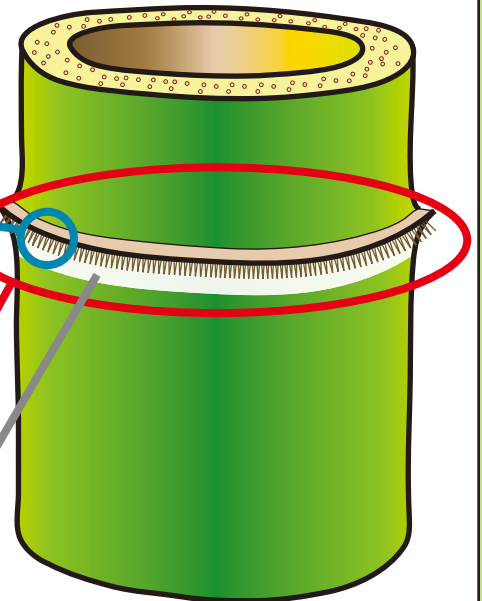
マダケ

マダケの節の環の2本目はふくれあがっているが、色での見分けはつきにくい。

モウソウチクの節の縁には褐色のふさふさした毛がはえ目立つ。古いものになるとなくなる。

マダケは節に2つの環があるが、モウソウチクは1つ。

モウソウチクの若竹には節の下に白い口状物質が帯状につき目立つ。



モウソウチク

タケ類天狗巣病にかかったタケが示す代表的な症状をまとめています。発症度の値が高いほど病気が進行して竹林が弱った状態を示します。

発症度 (4段階判定)	天狗巣病の 症状	症状の特徴
1		つる状化 枝から細長くて多数の節を持ったつる状の枝が無数に生える症状を示します。50cm以上になり、葉は縮れて小さな鱗 <small>うろこ</small> のようになります。天狗巣病の別名の“蔓 <small>つる</small> 自然 <small>ねんこ</small> 枯”はこの症状に由来しています。
		ほうき化 枝先の一カ所から細くて短い枝が無数に生え、ほうきのような形をした症状を示します。この枝から生える葉は小さく縮れています。“天狗巣”の名はこの症状に由来しています。
2		房<small>ふさ</small>状)化 1本の竹に、ほうき化した枝やつる状化した枝が大量に生えて房状になる症状を示します。病気の異常な枝が大量につくため、写真のようにその重みで竹がしなだれてしまいます。
3	)落 葉) 竹が弱り一部の枝の葉を落とす症状を示します。これは、竹がほうき化・つる状化・房状化した異常な枝葉を生やすために、正常な状態に比べ多くの栄養分を失ってしまうため起こります。
4		桿<small>かん</small>の枯死 症状がさらに進行すると竹の桿全体の葉が落ち立ち枯れした状態になります。異常な枝葉も落ちます。立ち枯れした桿は1本だけということはまれで、桿はある程度まとまって枯れています。